

介護経営者向け情報紙

在宅から施設、周辺産業まで

週刊 高齢者住宅新聞

Elderly Press Newspaper

2024年(令和6年)

9月18日

第772号 毎週水曜日発行

発行人 網谷敏敷
年間購読料 23,100円 (送料込・税込)

(株)高齢者住宅新聞社
〒104-0061
東京都中央区銀座8-12-15
☎03-3543-6852(編集部)



TOPICS

ニュース 2面

人手不足緩和策 賃金・福祉機器で効果

介護BIZ 3~7面

Knots
ペット飼育、シニアも気軽に

(株)高齢者住宅新聞社様より取材を受け、掲載いただきました。



笑顔と楽しさの溢れる「誰一人取り残さない」 持続可能で多様性と包摂性のある 社会の実現に貢献します

《Knotsの事業理念》

公益社団法人 Knots は人と動物の共生及び SDGs を推進し、人も含めたすべての動物がより大きな喜びを感じながら、幸せに暮らせる社会の実現を目指しています。共生という言葉には、「お互いの存在に感謝し、一緒に幸せに暮らしていこう」という願いが込められています。

人と人、人と動物、動物と動物の間にはそれぞれ関係性があり、影響し合っています。その「関係性を正しく理解し、お互いがお互いを尊重し、バランス良く生きること」、それぞれの「いのちが調和すること」が幸せに繋がるのではないかと考え、国内外の企業や団体、自治体、専門家などと幅広く連携をし、人と動物のより良い共生及び SDGs を推進し、「ヒトも生き物である」という視点を活かした、啓発・教育・研究等の事業展開を行っています。

団体名の「Knots=結び目」の示す通り、市民・企業・団体・行政・学校・研究機関等と様々な連携を創り、笑顔と楽しさの溢れる「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に貢献したいと考えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

論文「伴侶動物との暮らし」を活用した 「高齢者が幸せに暮らせる社会システム」の提案

記事内容についての論文です。2024年10月27日(日)に神戸ポートピアホテルで開催するシンポジウム「ペットとの暮らしを活用する豊かな社会—それを可能にする環境整備—」では、この先にある具体的な取組みについて考えていきます。

【事業に関するお問い合わせは、公益社団法人 Knots 事務局まで】

〒650-0032 兵庫県神戸市中央区伊藤町110-2
神戸ポートビル旧居留地7F-11
TEL: 050-3702-8058 (月~金 9:00~17:00)
FAX: 050-3730-0738



トの飼育については、富永 賃貸住宅については、ある住宅情報サイトに掲載されているペット飼育可能な物件は全体の2割に満たない状況です。シニア向け分譲マンションやサ高住など高齢者向け住まいでは一部、ペット飼育可とする動きが広がっているようです。

「ペットは高齢者の暮らしにどのような影響を与えるでしょうか」と富永 15年にNPO法人動物愛護社会推進協会が実施したペットの飼育主を対象としたアンケートでは、「生活に満足している」とする飼育主が全年齢層で見ると26.7%であるのに対し、60代以上では35.4%でした。

23年には東京都健康長寿医療センターが「ペットを飼っている人の介護費は飼っていない人の約半分は抑制され」と発表しています。

「高齢者のペットとの暮らしを支える仕組み構築についても教えてください」と富永 犬の引き取り理由として大きな割合を占めるのが「飼育主の死亡・病気」「高齢者施設入所」です。逆にいえば、「飼育主に何かがあった時のペットの行き先、安全な居住を保障できるシステムがあればいい」と富永は考えています。

「ペット飼育可とすることに後ろ向きな高齢者向け施設・住宅はまだ多いと思います」と富永 まずは成功事例を生むところからだと考えています。もちろんネガティブな要素もありますが、それを凌駕する可能性が動物との暮らしにはあります。ペットを家族の一員として迎えるという価値観が根付いてきている今は、ビジネスの視点でもチャンスが生まれるきっかけを、プラットフォームを通じてつくりたいと考えています。

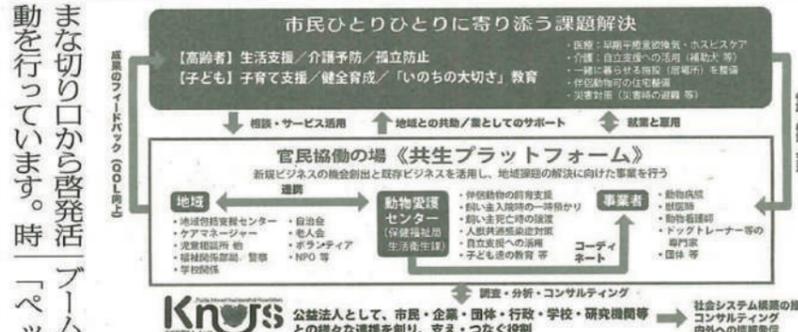
ペット飼育、シニアも気軽に 地域連携で引き取り先保証

公益社団法人 Knots (神戸市) は、動物と人間の共生、ペットとの暮らしを組み込んだ社会システムの構築などをテーマに啓発活動を行ってきた。同法人は、ペットが高齢者に幸福感をもたらすとして、高齢になってからもペットと暮らし続けられる支援体制を提案する。富永佳与子理事長にインタビューした。

富永佳与子 理事長

法人の始まりは1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに組織されたもので、震災時に救済し譲渡した犬猫のその後について調査を行ったのが始まりです。そこから「人と動物の共生」をテーマに、一般市民、行政、関連団体、企業、学校などに向け啓発イベントなどを行っています。

動物愛護から始まり、アニマルセラピーや青少年の情操教育、少年犯罪防止におけるペットの活用、環境問題、ペットに係る新たな産業創出などさまざまな課題に取り組んでいます。



流に合わせ、その都度動物と人間との関係性を探り、活動を広げてきました。

「ペットに係る産業についても、23年時点では、国内で約1600万頭、08年のピーク時の約2400万頭からは減少していますが、矢野経済研究所によると、22年時点の見込みでペットに関連する産業の市場規模は約1兆8000億円とされています。

「集合住宅でのペットの飼育については、富永 賃貸住宅については、ある住宅情報サイトに掲載されているペット飼育可能な物件は全体の2割に満たない状況です。シニア向け分譲マンションやサ高住など高齢者向け住まいでは一部、ペット飼育可とする動きが広がっているようです。

「ペットは高齢者の暮らしにどのような影響を与えるでしょうか」と富永 15年にNPO法人動物愛護社会推進協会が実施したペットの飼育主を対象としたアンケートでは、「生活に満足している」とする飼育主が全年齢層で見ると26.7%であるのに対し、60代以上では35.4%でした。

23年には東京都健康長寿医療センターが「ペットを飼っている人の介護費は飼っていない人の約半分は抑制され」と発表しています。

「高齢者のペットとの暮らしを支える仕組み構築についても教えてください」と富永 犬の引き取り理由として大きな割合を占めるのが「飼育主の死亡・病気」「高齢者施設入所」です。逆にいえば、「飼育主に何かがあった時のペットの行き先、安全な居住を保障できるシステムがあればいい」と富永は考えています。

「ペット飼育可とすることに後ろ向きな高齢者向け施設・住宅はまだ多いと思います」と富永 まずは成功事例を生むところからだと考えています。もちろんネガティブな要素もありますが、それを凌駕する可能性が動物との暮らしにはあります。ペットを家族の一員として迎えるという価値観が根付いてきている今は、ビジネスの視点でもチャンスが生まれるきっかけを、プラットフォームを通じてつくりたいと考えています。

介護BIZ